

医学部附属看護専門学校  
令和5年度自己点検・評価及び学校関係者評価票

令和5年度 自己点検・評価項目	自己点検・評価結果 (現状説明, 長所・特色, 問題点, 全体のまとめ)	取組 評価	学校関係者評価				
			自己点検・評価結果 への意見等	優れている点, 継続 してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組 評価
評価項目① 教育課程・教育活動は適切に 実施・評価されているか。	<p>1 現状説明</p> <p>卒業時に持つべき資質として, ディプロマ・ポリシーを設定し, 卒業時の技術到達度評価を行っている。各科目においてはシラバスに, 「学習目的」, 「到達目標」, 「授業内容」, 「成績評価基準」等を明示している。また, 進度表を明示し, どの時期にどのような学習をするのか, さらに準備学習も明示されているので, 事前に予習をして授業に取り組めるようにしている。</p> <p>令和4年度にカリキュラム改正があり, 今年度の1・2年次は新カリキュラム, 3年次は旧カリキュラムで運用している。新カリキュラムでは, 看護師に必要なコミュニケーション能力や臨床判断能力及び実践力を身につけさせるために新設科目を配置している。対象や療養の場の多様化に対応できるよう, 1年次に「地域・在宅看護論」という科目を置き, 本校がある板橋区内の地域調査を行い, 人々が生活している住居や街並み, 暮らしぶりを実際に観察し, 地域の特性を把握している。2年次には臨床判断能力に必要な基礎的能力の強化として「生活と形態機能」という科目を新設し, 解剖・生理学の知識を活用し生活行動の枠組みから「からだ」の機能を捉える学習をしている。</p> <p>看護分野における実践者の育成のため, 臨地実習を最も重要な科目と位置付け, 新カリキュラムでは実習時期を早め, 1年次に「基礎看護学実習Ⅰ」を, 2年次前期に「基礎看護学実習Ⅱ」</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度のカリキュラム改正により, 1・2年次は新カリキュラム, 3年次は旧カリキュラムで運用されている。</li> <li>卒業時に持つべき資質としてディプロマ・ポリシーを設定し, 卒業時の技術到達度評価が行われている。</li> <li>ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を備えた看護の実践者を育成するためカリキュラム・ポリシーに基づき基礎分野, 専門基礎分野, 専門分野の各科目においては, シラバスに, 「学習目的」, 「到達目標」, 「授業内容」, 「成績評価基準」等が明示されている。また, 進度表を明示し, どの時期にどのような学習をするのか, さらに, 準備学習も明示されているので, 事前に予習をして授業に取り組めるよう配慮されており, ホームページ上で,</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラム改正のポイントを踏まえ, 対象や療養の場の多様化に対応できるよう1年次に「地域・在宅看護論」の科目を置き, 板橋区内の地域調査を行い人々が生活している住居や街並み, 暮らしぶりを実際に観察し, 地域の特性を把握している。2年次には臨床判断能力に必要な基礎的能力の強化として「生活と形態機能」という科目を新設し, 解剖・生理学の知識を活用し, 生活行動の枠組みから「からだ」の機能を捉える学習をしている。</li> <li>新カリキュラムでは, 1年次に「基礎看護学実習Ⅰ」, 2年次前期に「基礎看護学実習Ⅱ」, 2年次後期から各領域実習が開始される。実習時期を早めたことにより, 臨床現場のイメージがつきやすく, 対象理解</li> </ul>	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラム運用開始2年目となるため, 新設科目の評価とともに, 大きく時期が変更された基礎看護学実習及び領域実習について丁寧な評価が必要である。</li> </ul>	A

令和5年度 自己点検・評価項目	自己点検・評価結果 (現状説明, 長所・特色, 問題点, 全体のまとめ)	取組 評価	学校関係者評価			
			自己点検・評価結果 への意見等	優れている点, 継続 してほしい点	問題点・要望等	その他意見等
評価項目① 教育課程・教育活動は適切に 実施・評価されているか。	<p>を配置し、2年次後期から各領域実習を開始するようにした。また、日本大学病院及び日本大学医学部付属板橋病院(以下、「付属病院」という)の医療施設のほか、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、保育園及び精神障がい者の就労支援施設等で実習するようにしている。</p> <p>講義・実習共に、学習成果を総合的に評価している。授業評価アンケートに関しては、評価結果から改善計画書を作成している。また、実習評価アンケートは、評価結果を付属病院の実習指導者へフィードバックしている。</p> <p>旧カリキュラムの原級留置者に対しては、代替できる講義科目の周知を行い、代替できない科目においては、学習進度を考慮しながら原級留置者のみの講義を行っている。(成人看護学看護の方法Ⅰ-2、1-3、小児看護学看護学概論Ⅰ)</p> <p>2 長所・特色 シラバスは、ホームページ上で公開されており、必要なときはいつでも閲覧できるようにしている。シラバスを基に月別の時間割が作成され、令和5年度より時間割はポータルサイトで閲覧できるようにしている。学年ごとの時間割を明示しているが、閲覧に学年制限はないため、原級留置者・未履修科目のある学生は、単位修得に必要な授業・試験の日程を各自で確認できるようになっている。</p> <p>3 問題点 特になし。</p>		<p>公開されている。また、令和5年度より授業時間割がポータルサイトで閲覧できるため、学年の枠に関係なく原級留置者・未履修科目のある学生は、単位修得に必要な授業・試験の日程を各自で確認できるようになっており、学習計画を立てることができる。旧カリキュラムの原級留置者に対しては、代替できる講義科目の周知を行い、代替できない科目においては、学習進度を考慮しながら原級留置者のみの講義が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムでは、看護師に必要なコミュニケーション能力や臨床判断能力及び実践力を身につけさせるため、新しい科目が設けられた。</li> <li>・看護分野における実践者の育成のため、臨地実習を最も重要な科目と位置付け、新カリキュラムでは、基礎、領域実</li> </ul>	<p>や看護の実践者としての自覚への動機付けにつながると期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習科目は、医療施設のほか、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、保育園及び精神障がい者の就労支援施設等で実施しており、様々な対象の理解と療養及び養育の場の多様化に対応できる実習環境が整っている。</li> <li>・講義・実習共に、学習成果を総合的に評価しており、授業評価アンケートに関しては、評価結果から改善計画書を作成している。また、実習評価アンケートは評価結果を付属病院の実習指導者へフィードバックしている。これらを教員全体で内容を共有し講義及び実習指導へ反映されることは有益である。</li> </ul>		

令和5年度 自己点検・評価項目	自己点検・評価結果 (現状説明, 長所・特色, 問題点, 全体のまとめ)	取組 評価	学校関係者評価				
			自己点検・評価結果 への意見等	優れている点, 継続 してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組 評価
評価項目① 教育課程・教育活動は適切に 実施・評価されているか。	4 全体のまとめ 新型コロナウイルス感染症が5類に 移行したことにより, 従来どおり対面 形式で講義・演習を実施している。臨 地実習に関しても, 実習日数・学生数 の調整を行いながら可能な範囲で病棟 実習を実施している。外部施設におい ても実習環境を整え, おおむねシラバ スに記載されているスケジュールどお りに実習を進めている。新カリキュラ ム運用開始2年目となるので, 新設科 目の評価を行うとともに, 令和5年度 から開始される領域実習の時期・内容 等を評価していく。		習共に実習時期・年 次を早めて実施さ れる。				

令和5年度 自己点検・評価項目	自己点検・評価結果 (現状説明, 長所・特色, 問題点, 全体のまとめ)	取組 評価	学校関係者評価				
			自己点検・評価結果 への意見等	優れている点, 継続 してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組 評価
評価項目② 学生の単位修得に向けた支援 を実施しているか。	<p>1 現状説明 成績不振者や欠席の多い学生に対し, 学年担任が当該学生に応じた支援を行うため, 個別面談・指導を行っている。令和5年度は, 原級留置者に対する支援を強化するため, 副担任を置き, 計画的に学習支援等を行っている。</p> <p>2 長所・特色 講義科目においては, 終了試験の平均点が60点未満の場合, 授業担当者に対して再試験前に補習講義を依頼している。実習科目においては, 臨地で実習ができない場合, 実習目的を達成するための実習時間・内容が満たせるよう, 学内でシミュレーターを用いての演習や事例学習を行うなど代替実習を行っている。</p> <p>3 問題点 学習支援を行っているが, 原級留置者が10%程度いる。</p> <p>4 全体のまとめ 学年担任を中心に丁寧な学生指導を行うことで, 学生の学習意欲を維持・向上させ, 単位修得に向けた支援を行っている。特に, 1年次副担任による定期的な学習・技術支援には原級留置者の半数以上が参加するようになり, 確認テストの得点の向上や学生同士で教え合うようになっている。メンタル面での学習継続困難者は, 引き続き学年担任の定期的な面談や日本大学本部のカウンセラーによる精神的サポートを行っている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>成績不振者や欠席の多い学生に対し, 学年担任が当該学生に応じた支援を行うため, 個別面談・指導を行っている。また, 原級留置者に対する支援を強化するため, 副担任1名を置き, 当該学生に対し計画的に学習支援等を行っている。</li> <li>終了試験の平均点が60点未満の場合, 講義科目では再試験前に補習講義を行い, 実習科目では臨地で実習ができない場合, 実習目的を達成するための実習時間・内容が満たせるよう, 学内でシミュレーターを用いての演習や事例学習を行うなど代替実習を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位修得に向け, 教員が実技指導をはじめ, 丁寧に対応しており, 学習意欲を維持・向上させている。さらに, 学生のライフサイクルに合わせ, 学習しやすい環境の提供に努め, 学生個々に対応できる学習支援を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援を行っているが, 原級留置者が10%程度いる。令和5年度は副担任を置くことで学習支援の強化に努めているので, その割合が減少されることを期待したい。</li> </ul>	特になし	B

令和5年度 自己点検・評価項目	自己点検・評価結果 (現状説明, 長所・特色, 問題点, 全体のまとめ)	取組 評価	学校関係者評価			
			自己点検・評価結果 への意見等	優れている点, 継続 してほしい点	問題点・要望等	その他意見等
評価項目③ 学生の支援を適切に行っているか。	<p>1 現状説明</p> <p>① 国家試験・就職・進学に対する支援 1年次から国家試験対策を行っている。3年次には対策を強化し, 業者による模試, 外部講師による講義, 12月からは総合講義・総合試験を実施している。成績不振者へは国家試験直前まで課題解決ができるよう個別指導を行っている。 キャリア支援として, 1年次から就職活動・進学についての説明, キャリアプランの意識付けとしてポートフォリオの作成, 2年次では業者によるエントリーシートの書き方, 面接対策講座や小論文指導, 付属病院の合同就職説明会, 就職及び進学に関する情報提供・相談・面談等を行っている。</p> <p>② 学生相談に関する支援 カウンセリングルームを設置し, 日本大学本部のカウンセラーを配置している。入学時のガイダンスで紹介し, 必要に応じてカウンセリングが受けられるようにしている。カウンセラーが来校しない時は, 状況によりインターカー資格を有する教員が面談を行いサポートしている。</p> <p>③ 経済的側面に対する支援 東京都の奨学金, 日本学生支援機構の奨学金及び高等教育修学支援制度の活用に関する説明を行い, 経済的理由により学習を断念しないようにしている。</p> <p>④ 学生の健康管理に関する支援 年1回(4月)に健康診断を行い, 受診行動や経過観察が必要な学生には個別で対応している。また, インターカー資格を有する担任による面談等を行い, 健康に関する相談の機会を設けている。保健室, カウンセリ</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次から国家試験対策を行い, 3年次には模擬試験や外部講師による講義等を行っている。また, 国家試験出題範囲に係る科目の成績不振者には個別指導を行い, 強化を図っている。キャリア支援も1年次から職業意識の醸成を行い, 就職・進学のサポートができています。</li> <li>カウンセラーを配置し, 必要時に相談やサポートができています。</li> <li>2つの奨学金制度や高等教育修学支援制度等の説明を行い, 経済的側面に対する支援が行えている。</li> <li>年1回の健康診断, 予防接種, 日々の健康チェックなどを行い, 学生の健康管理の支援や感染対策が行えている。</li> <li>新入生歓迎会や総会, 若樹祭等学生の活動は定期的に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験対策の取組として, 個別指導や面談を行い, サポート体制がしっかりしている。定期的に模擬試験を取り入れ, その振り返りまで支援されており, 対策の強化ができています。継続してほしい。</li> <li>就職に関しては, 1年次から意識付けができています。就職試験に向けての支援までできています。</li> <li>カウンセラーを配置しているが, 担任や他の教員にも, いつでも相談できるサポート体制が充実している。</li> <li>学生の健康管理や感染対策が徹底されているためクラスターの発生がない。</li> <li>年に1回, 学年ごとに保護者会を実施し, 学生の様子や学校での取組の説明をされている。保護者とも連携を図ることで, 学生の生活や学習の支援につなげることができています。</li> <li>ポータルサイトで学生に随時必要な情報が発信されており, 情報伝達のツ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠方から入学してくる学生の経済的負担を軽減するためにも学生寮の再開を検討していただきたい。</li> <li>付属病院の就職率を上げるために, 日本大学の学生だけの就職試験日を設定するなど受験しやすい体制を検討してほしい。</li> <li>学費以外にもワクチン接種等の必要な費用がかかるので, 経済的負担の軽減につながるサポートがあるとよい。</li> <li>ポータルサイトで発信された時, 通知機能があると学生は活用しやすいと思われる。</li> </ul>	A

令和5年度 自己点検・評価項目	自己点検・評価結果 (現状説明, 長所・特色, 問題点, 全体のまとめ)	取組 評価	学校関係者評価			
			自己点検・評価結果 への意見等	優れている点, 継続 してほしい点	問題点・要望等	その他意見等
評価項目③ 学生の支援を適切に行っているか。	<p>ングループ（共に日本大学医学部と兼用）の利用等, 継続して支援できる体制も整えている。</p> <p>新型コロナウイルス感染者やインフルエンザウイルス感染者が散発したが, クラスターの発生には至っていない。</p> <p>⑤ 学生の活動に関する支援 学生自治会の活動は定期的に行われている（新入生歓迎会, 総会, 若樹祭等）。コロナ禍の影響により部活動が活動休止をしていたが, 日本大学医学部と合同で活動を行っているバスケットボール部の活動が再開する。</p> <p>2 長所・特色 国家試験対策, 就職対策を手厚く行い, 全国平均を上回る合格率の達成及び就職率を確保している。 学生自治会担当教員を2名配置し, 学生の活動支援を行っている。</p> <p>3 問題点 剣道部・バドミントン部は, 部活動の再開ができていない。</p> <p>4 全体のまとめ 就職・学習支援は適切に行われているが, 付属病院への就職率は全体の60%程度しかない。看護専門学校運営委員会で本校の教育活動と日本大学医学部の附属校であることを伝え, 就職率アップにつなげていく必要がある。現下において経済的支援が必要な学生が多い。今後学校独自の奨学金制度の検討が必要である。学生意見箱を設置しているが, 学生の要望がない。学生の要望を回収するツールとしてポータルサイトの活用も検討していく。</p>		<p>ルが確立している。ポータルサイトの活用は学生のサポートとして有効と思われる。</p>			

令和5年度 自己点検・評価項目	自己点検・評価結果 (現状説明, 長所・特色, 問題点, 全体のまとめ)	取組 評価	学校関係者評価				
			自己点検・評価結果 への意見等	優れている点, 継続 してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組 評価
評価項目④ 広報活動は適切か。	<p>1 現状説明 今年度の入学定員割れを受け, その確保のため学校説明会等の開催時期・回数・内容の見直しを行い, 日本大学医学部と同時開催のオープンキャンパスの導入, 附属高等学校等や在学生の出身高等学校への学校案内等の発送, 附属高等学校等や都内の高等学校への学校訪問説明, 業者主催の進学相談会への参加, 個別学校見学への対応等志願者・入学者の確保に努めている。</p> <p>2 長所・特色 日本大学医学部附属の専門学校であり, 附属病院は実習施設でもあり, さらに, 就職先の施設でもあることが強みである。</p> <p>3 問題点 18歳人口の減少, 大学志向等から志願者数が減少している。また, 学生寮を閉鎖したため, 地方の附属高等学校等の学生及び保護者の経済的負担が増加している。</p> <p>4 全体のまとめ 志願者の確保に関しては, コロナ禍での制限が緩和してきているため, 従来どおり対面形式での説明会の開催及び高等学校訪問による説明を積極的に行っている。また, 学校見学の希望にも対応し実習室で看護体験等を実施している。令和5年度はオンラインでの説明会の開催も行っており, 来校できない方々に向けホームページで周知している。令和6年度は広報活動の見直しを行い志願者の確保に努めていく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>附属高等学校等や在学生の出身高等学校, 近隣の高等学校等約300校に学校案内を送付し, 広報活動が行われている。</li> <li>コロナ禍の制限緩和により, 対面形式での説明会や見学会を再開している。また, 業者を通しての依頼や本校に直接依頼がある学校や附属高等学校等に対して学校訪問による学校説明会・模擬授業も実施している。見学会では, 学校だけでなく, 実習施設である附属病院の見学も取り入れている。</li> <li>令和5年度は, 日本大学医学部とオープンキャンパスを同時開催し, 看護体験, 模擬授業, 進学相談等の工夫がされている。</li> <li>広報活動は, 教員を中心に学校案内の作成, ホームページの更新を行っている。また, 学校説明会・見学会, 進学相談会等の直接生徒・保護者・高等学校等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対面形式での説明会や見学会等がコロナ禍前の状況で開催され, 特にオープンキャンパスは, 日本大学医学部と同時開催とすることで, 様々な企画を用意して来場者のニーズに対応する工夫がされている。</li> <li>学校説明会においては, 入試情報から就職状況, 学生生活に至るまで, 志願者のみならず, その保護者にも目を向けた戦略的な広報活動がされており継続していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済的負担軽減の方策が志願者の確保にもつながることなので, どのような支援策が必要か精緻に検討し, その構築が望まれる。</li> </ul>	特になし	B

令和5年度 自己点検・評価項目	自己点検・評価結果 (現状説明, 長所・特色, 問題点, 全体のまとめ)	取組 評価	学校関係者評価				
			自己点検・評価結果 への意見等	優れている点, 継続 してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組 評価
評価項目④ 広報活動は適切か。			関係者と接する機会に積極的に参加している。 ・学校案内は, 受験生向けの必要な情報が網羅されており, 特に先輩からのメッセージは, 学生生活をイメージしやすく, 効果的であると感じる。また, 二次元バーコードによりホームページと連動しており, アナログとデジタルのいいところ取りをしている。				